

■ 概況

12/5~12/11のNYMEX・WTIIは、58.43~59.24ドルの範囲で推移した。

12月12日は、トランプ大統領の米中貿易交渉で第一段階の合意は近いとするツイートや新たな対中関税の取りやめ・過去の制裁関税の引き下げ等の報道を受けて反発した。さらに、欧州中銀の金融政策の維持決定やパウエル米FRB議長の上昇見送り発言、前日のサウジアラムコの国内上場(IPO)の活況も値上がり要因となった。1月限終値は前日比0.42ドル高の59.18ドル。

週末13日は、米中両政府は、貿易協議の第一段階合意を正式発表、16日からの追加関税も取りやめられ、さらに、英国総選挙で保守党が大勝、EU離脱をめぐる不透明感が払拭され、世界経済の先行きへの警戒感が後退し続伸し、3か月ぶりに60ドル台を回復した。なお、ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は667基と前週比4基増と増加した。1月限終値は前日比0.89ドル高の60.07ドル。

週明け16日は、引き続き、米中貿易協議の合意を好感、3営業日続伸し、9月16日以来約3か月ぶりの高値を付けた。1月限終値は前週末比0.14ドル高の60.21ドル。

17日は、米中貿易協議の正式合意、英国の早期EU離脱など、世界経済の先行き不安の後退で、4営業日続伸した。1月限終値は前日比0.73ドル高の60.94ドル。

18日は、前日夕刻の民間の原油在庫報告の大幅な積み増し報告やドル高に伴う割高感から売りが先行したが、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報が、原油の前週比110万バレル減と市場予測(同130万バレル減)並みの取り崩しを報告したことから、買い戻され、最終的には前日

比わずかに値下がりした。1月限の終値は前日比0.01ドル安の60.93ドル。

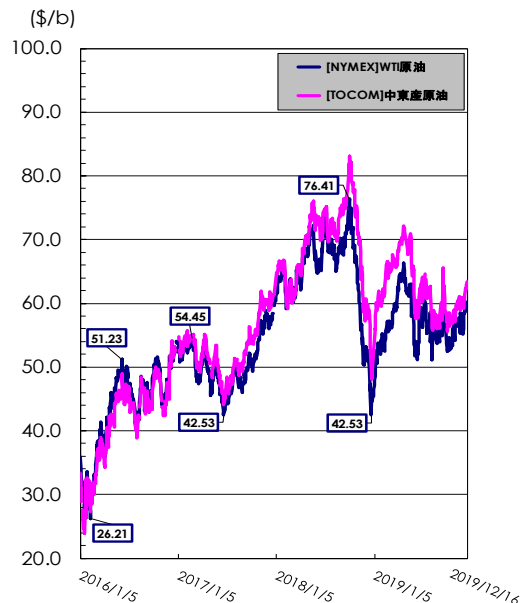
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は12月5日~11日の間62.50~63.90ドルの範囲で推移した。12月12日63.80ドル、13日64.60ドル、16日65.20ドル、17日65.60ドル、18日65.80ドルで推移した。

為替は12月5日~11日の間108.60~108.90円の範囲で推移した。12月12日108.53円、13日109.56円、16日109.43円、17日109.56円、18日109.54円で推移した。

財務省が12月18日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月下旬の原油輸入平均CIF価格は、44,438円/klで、前旬比216円高、ドル建て64.87ドルで前旬比0.25ドル安。為替レートは1ドル/108.92円だった。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、11月の原油輸入平均CIF価格は、44,409円/klで、前月比322円高、ドル建て64.91ドルで前旬比0.11ドル安。為替レートは1ドル/108.78円だった

そのような中で、12月16日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油は同0.2円の値上がり、灯油は同1円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン・軽油が7週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がりだった。この週(12月第3週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の値上げとなった。

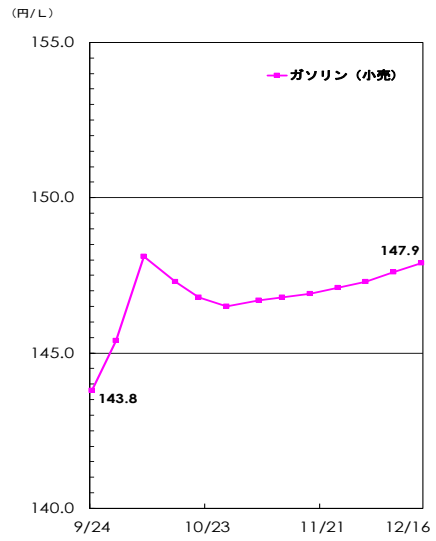
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/8 ~ 12/14	3,468 ▼ -68	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.6 ▼ -1.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	12/14	10,848 ▼ -816	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/16	63.41 ▲ 1.36	▲ 4.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/16	60.21 ▲ 1.19	▲ 10.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月下旬	64.87 ▲ 0.25	▼ -16.84
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,438 ▲ 216	▼ -13,642
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.92 ▼ -0.12	▲ 4.08
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/16	110.43 ▼ -0.83	▲ 4.04



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/8 ~ 12/14	1,049 ▲ 97	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	836 ▼ -20	▼ -	
	輸出	"	151 ▲ 20	▲ -	
	在庫	12/14	1,543 ▲ 62	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/10 ~ 12/16	59.9 ▼ -0.2	▲ 3.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/10 ~ 12/16	57.3 ▲ 1.2	▲ 3.7
		(TOCOM/中部)	12/16	60.0 ▲ 0.5	▲ 4.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/16	147.9 ▲ 0.3	➡ 0.0	

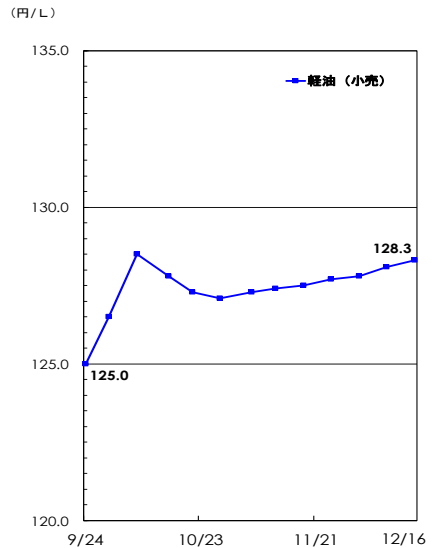
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

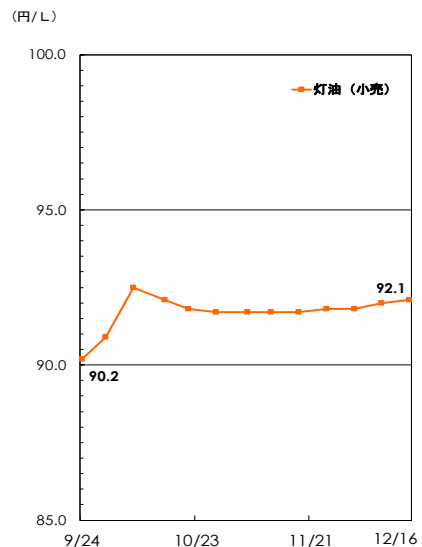
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/8 ~ 12/14	857 ▲ 10	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	691 ▼ -37	▲ -	
	輸出	"	223 ▲ 41	▼ -	
	在庫	12/14	1,442 ▼ -57	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/10 ~ 12/16	63.0 ▼ -0.1	▲ 2.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/10 ~ 12/16	65.0 ➡ 0.0	▲ 2.9
		(TOCOM/中部)	12/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/16	128.3 ▲ 0.2	➡ 0.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/8 ~ 12/14	377 ▲ 56	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	546 ▲ 125	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -39	➡ -	
	在庫	12/14	2,453 ▼ -169	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/10 ~ 12/16	63.1 ▼ -0.1	▲ 4.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/10 ~ 12/16	61.8 ▲ 0.8	▲ 3.6
		(TOCOM/中部)	12/16	64.1 ▲ 0.5	▲ 3.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/16	92.1 ▲ 0.1	▼ -0.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月18日のNYMEX市場WTI原油は、前日夕刻の米国石油協会(API)の原油在庫の大幅な積み増し報告やドル高に伴う原油先物の割高感から売りが先行したが、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報において、原油の前週比110万バレル減と市場予測(同130万バレル減)並みの取り崩しが報告されたことから、買い戻され、最終的には前日比わずかに値下がりました。市場では、米中貿易協議の第一段階正式合意やOPECプラスの減産拡大への期待感が根強く、価格の下支えになっている。1月限の終値は前日比0.01ドル安の60.93ドル、2月限の終値は同0.02ドル安の

60.85ドル。

EIAによると、12月16日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.5セント値下がりの1ガロン2.536ドル(73.9円/ℓ)、ディーゼルは同0.3セント値下がりの3.046ドル(88.8円/ℓ)となった。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年12月8日～12月14日に休止したトッパ能力は12.8万バレル/日で、前週に対して5.7万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は346.8万klと、前週に比べ6.8万kl減少。前年に対しては6.1万klの減少。トッパ稼働率は88.6%と前週に対して1.7ポイントの減少、前年に対しては1.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてA重油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/10.2%増、ジェット/15.1%増、灯油/17.4%増、軽油/1.2%増、A重油/1.0%減、C重油/34.0%減。今週のC重油の輸入は1.0万kl(前週比1.0万kl増)。軽油の輸出は22.3万kl(前週比4.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比でガソリン、ジェット、軽油で減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリンが減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は83.6万kl(対前週2.2%減)と2週振り減少となり、17週連続で100万klを下回った。ジェット10.5万kl(対前週38.0%減)、灯油54.6万kl(対前週29.8%増)、軽油69.1万kl(対前週5.1%減)、A重油28.6万kl(対前週38.2%増)、C

重油21.5万kl(対前週2.7%増)。

(単位:千L)

	今週 (12/8 ~ 12/14)	前週 (12/1 ~ 12/7)	前週比
ガソリン	836	856	▼ -20 (-2%)
ジェット燃料	105	170	▼ -65 (-38%)
灯油	546	421	▲ 125 (30%)
軽油	691	728	▼ -37 (-5%)
A重油	286	207	▲ 79 (38%)
C重油	215	209	▲ 6 (3%)
合計	2,679	2,591	▲ 88 (3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月14日時点の在庫は、ガソリンで積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは154.3万kl、前週差6.2万kl増。前年に対しては10.9万kl少ない。

灯油は245.3万kl、前週差16.9万kl減。前年に対しては16.1万kl少ない。

軽油は144.2万kl、前週差5.7万kl減。前年に対しては19.4万kl少ない。

A重油は66.9万kl、前週差3.8万kl減。前年に対しては17.3万kl少ない。

C重油は194.2万kl、前週差11.2万kl減。前年に対しては7.7万kl少ない。

(単位:千L)

	今週 (12/14)	前週 (12/7)	前週比
ガソリン	1,543	1,481	▲ 62 (4%)
ジェット燃料	871	923	▼ -52 (-6%)
灯油	2,453	2,622	▼ -169 (-6%)
軽油	1,442	1,499	▼ -57 (-4%)
A重油	669	707	▼ -38 (-5%)
C重油	1,942	2,054	▼ -112 (-5%)
合計	8,920	9,286	▼ -366 (-3.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月10日～16日の原油価格は、前週比で大きく値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、12月10日～16日の間、ガソリン113円台でわずかに値下がり、軽油62～63円台でわずかに値下がり、灯油62～63円台で値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン115～116円台で値上がり、軽油65円台でわずかに値上がり、灯油61～62円台で出入り後大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン110～111円台で値上がり、軽油65円台でわずかに値上がり、灯油61～62円台で値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月10日～16日の製品スポット市況は、12月3日～9日平均と比べ、陸上取引でわずかな値下がり、先物軽油の横ばい以外の取引では値上がりした。

直近の陸上スポット価格(12/10～12/16、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.2円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は横ばいだった。

12月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げとなった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (12/10 ~ 12/16)	前週 (12/3 ~ 12/9)	前週比
レギュラー	59.9	60.1	▼ -0.2
灯油	63.1	63.2	▼ -0.1
軽油	63.0	63.1	▼ -0.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (12/10 ~ 12/16)	前週 (12/3 ~ 12/9)	前週比
レギュラー	57.3	56.1	▲ 1.2
灯油	61.8	61.0	▲ 0.8
軽油	65.0	65.0	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/10～12/16実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▲ 1.2	▲ 0.5
灯油	▼ -0.1	▲ 0.8	▲ 0.4
軽油	▼ -0.1	→ 0.0	▼ -0.1
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の147.9円、軽油は同0.2円高の128.3円、灯油は18%ベースで同1円高の1,657円(1%ベースでは同0.1円高の92.1円)。ガソリン・軽油は、7週連続の値上がりで、灯油は2週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが31都道府県、横ばいが10府県、値下がりが6県となった。全国最安値は埼玉県(143.1円(前週比0.6円高)、その次に安いのは、徳島県の143.3円(同1.3円高)、最高値は長崎県の158.0円(同0.3円高)。最も値上がりしたのは2.8円高の香川県

(144.9円)、横ばいは高知県等10府県、最も値下がりは山口県(143.5円)と愛媛県(149.6円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値下げとなった。今週は、原油価格は大きく値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げとなった。次週(12月23日)のガソリン・灯油の小売価格は、値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/16)	前週 (12/9)	前週比	直近高値
レギュラー	147.9	147.6	▲ 0.3	08/8/4 185.1
灯油	92.1	92.0	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	128.3	128.1	▲ 0.2	08/8/4 167.4

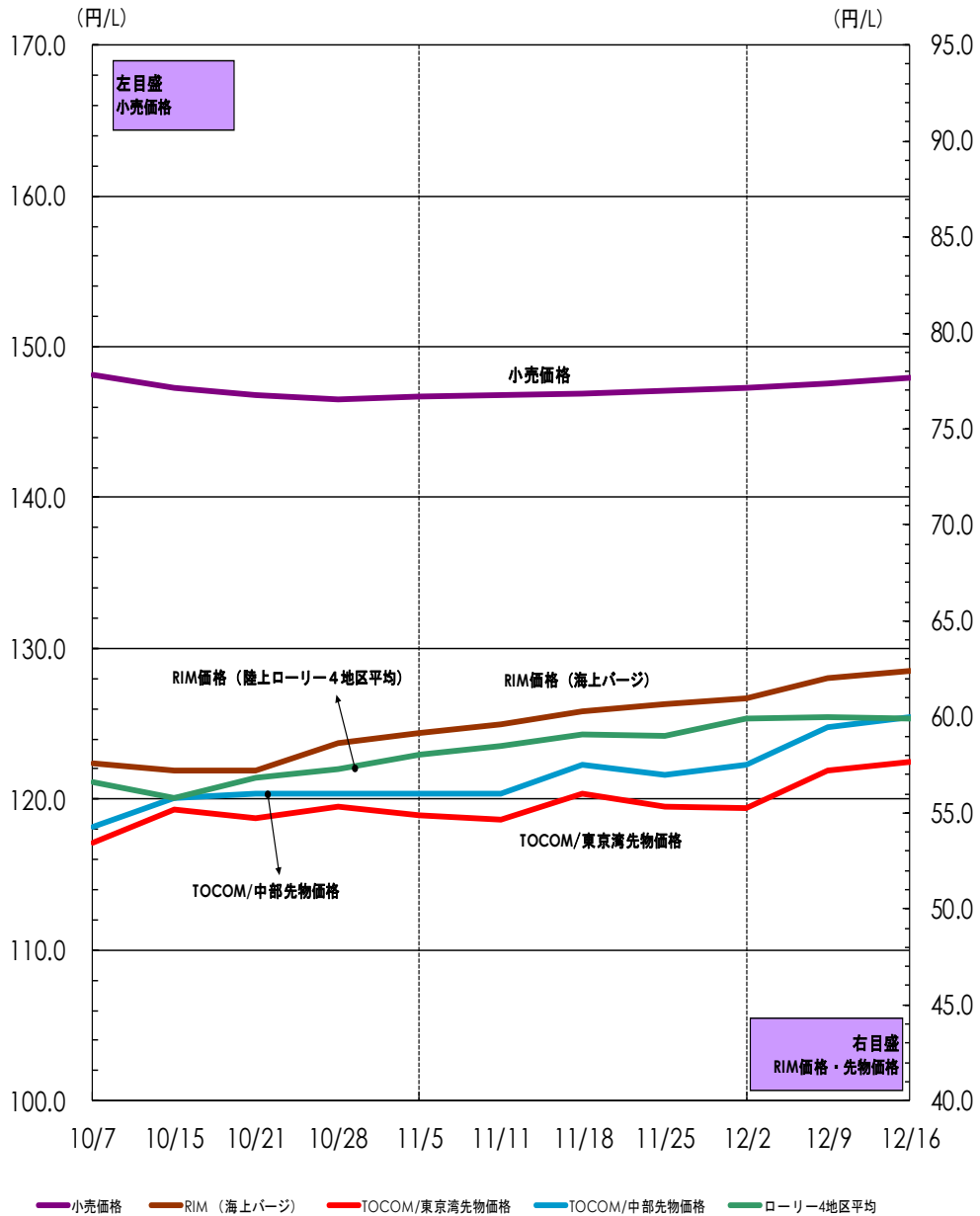
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/10/7 ~ 2019/12/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第37号)の公表は、12/27(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。